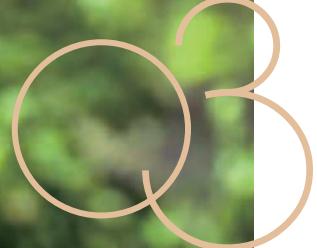


minamisomagazine
ミナミソママガジン

magazine for minamisoma supporter
2020 winter



南相馬市サポーター会報誌

特集 祝10周年！

南相馬市立中央図書館を訪ねて

VISIT THE LIBRARY

フルタイムスタッフはすべて司書 プロのチームワークで 進化する



2019年末現在、中央図書館で働くフルタイムのスタッフは18人で、全員が司書資格を持つプロフェッショナル。一般図書担当、児童書担当、調べ物を得意とするレファレンサーといった強みを生かして働いています。膨大な本の中から、図書館に入れるべき本を決めるのも司書の大仕事。利用者の要望やさまざまな情報をもとに選んだ本が、毎週300冊も図書館には届くそう。どこに並べたら読んでもらえるかな?と考えながら、わくわくする棚づくりを目指しています。

また、南相馬市では、小中学校全校への専任司書配置を目指しています。2019年は、18校を12人の学校司書が担当。市内で学ぶすべての子どもたちが本とのよい出会いや付き合いができることを目指しています。

「理想の図書館」を目指して
市民の声と尽力で誕生



中央図書館の前身は、文化センターの一角にあった小規模なもの。2002年、新図書館建設への機運が高まり、「としょかんのTOMOはらまち」が発足しました。日本全国のみならず海外の図書館先進地への視察、専門家を招いての勉強会などを活発に行い、市民による市民のための図書館の土壤が耕されていきました。

2005年には13850人分にのぼる署名を集め、新図書館建設促進要望書が市長、議会に提出されました。建設時はもちろん、現在の運営にも「としょかんのTOMOみなみそうま」の方々や、多くの利用者の声を多く反映しながら成り立っていることは、図書館一番の強みであり特徴かもしれません。

読書に、くつろぎに。

「図書館がほしい」という強い願いの結晶として生まれた南相馬市立中央図書館、0年を経て成長した図書館に入

2019年12月12日に設立
10年を迎えた南相馬市立中央図書館。長い間の市民の
念願が叶ってのオープン、1年半も経たずに見舞われた東
日本大震災。どんなときも憩
いの場としての役目を担つて
きた図書館の存在にありがと
う。そしておめでとう。11
年目も、これからも、まちの
玄関口として、世界への扉を
開き続けて、と願いを込めて。

南相馬市立中央図書館を訪ねて

祝
10
周
年
！



10th ANNIVERSARY

特集 南相馬市立中央図書館を訪ねて

連載

- 2 図書館「10年の歩み」

6 図書館バスが行く

7 コラム「図書館10年の歩み」

8 インタビュー
「暮らしの真ん中にある図書館だからできること」

12 グラビア

16 「馬先生直伝!! 正しい馬の飼い方」

17 「Bar Wizard マスターの今宵の一杯」

18 「予測不能な未来を楽しむ!
イノベーション研究室」

19 表紙の馬／編集後記



The MOBILE LIBRARY in the town

図書館バスが行く

南相馬市内を走る移動図書館サービス。訪ねる先の人たちの顔を思い浮かべながら、毎日本を入れ替えて運行しています。この日は月に1度のかしま保育園への巡回日。先生も子どもたちも、この日を楽しみに待っています。

おはようございます!

この日の運転手を務めるシルバー人材センターの林さんが乗り込んで、さて出発。現場に着いたら、テキバキと荷物を出して、貸し出しへの準備です。

園児も元気にごあいさつ。一列になって並び、数人ずつバスに乗り込んだら、思い思いに本を選びます。直感ですぐに選ぶ子、じっくり選ぶ子……みんな嬉しそう！

教室のなかでは、年少さんから順番に読み聞かせタイム。メリハリのある語り口に、固唾を飲んだり、一緒に大声を出したり、ともにぎやか。終了時間になつても「もっともっと」とせがまれます。

また来よー



図書館

10年の歩み

元館長・庄子さんに聞く、

極上の空間の楽しみ



復興と図書館の役割



JR原ノ町駅のすぐそばにある中央図書館は街の中にすっぽり溶け込み、季節と知的好奇心をつなぎます。

早春の2階の中庭に紅紫の沈丁花の甘い香りが巡ると、エッセーが読みたい。初夏には1階のクラフトトルームから見える藤の花房のカーテンは、玄関脇の金木犀は、時代小説を恋しくする。北側外壁の薔薇葉は、フレーレのチエロソナタが合う。

そして、今日はどこに座ろうか、本に囲まれた書架の中、風を感じるテラス、館内に配置された500を超える椅子を選ぶのも楽しいものです。

2002年から多くの市民の熱心な学びと建設に向けた活動がありました。そして、市民が望む図書館づくりがスタートし、2009年12月に開館。「知的好奇心を刺激する魅力的な蔵書や書棚づくり」は、多くの利用者の中に確固たる評価を得ました。

しかし、2011年3月11日に東日本大震災と原発事故が発生。建物被害はなかったのですが、屋内避難指示が出されたことから休館となり、中心的役割にあった司書たちも退職しました。再開した図書館では、震災後も残り続けた司書と新たに加わった司書の奮闘で、被災し不安な日々を過ごした市民に癒しと学びの空間を提供しました。

子どもたちとの成長とともに

2014年から、子ども読書週間、夏休み・読書週間・冬休み・春休みに子どもたちを図書館に誘う多くの事業を実施しました。避難した子どもたち

が離れたこと等、多感な時期にたくさんの我慢をしてきた子どもたちがいます。私たち大人は、子どもたちが手伝いこそが、図書館の役割であり、最大の使命だと思います。

大震災と原発事故は、多くの被害を出しましたが、子どもたちが一番の被害者だと思っています。避難を余儀なくされ、体育館や仮設校舎で授業をせざるを得なかつたことや、家族が離れ離れになつたこと等、多感な時期にたくさんの我慢をしてきた子どもたちがいます。私たち大人は、子どもたちがのびのびと学べる環境をつくらなければ、強く思うのです。

司書とのやりとりができる「ひととカード」があります。ある夏、東京の大学に進学した学生が帰省した際、このカードに「中央図書館は特別で自由な精神でまちをつくっていく市民がいることは、本当の復興を遂げたとは言えません。その市民の復興へのお手伝いこそが、図書館の役割であり、最大の使命だと思います」と書きました。このカードは私の宝ものです。

子どもたちとともに図書館があるといふことはうれしいものです。

子どもたちとともに図書館がありたいと思います。

『待つ』ということ 薫田清一：今、待つことの楽しさ・苦しさ・心細さは嫌われ、「待つ」ことを失った私たちがいる。かつて身の回りにあふれた「待つ」こと。意のままにならないもの、自分を超えたものに従い、未来というものを「待つ」ことを改めて考えさせられます。

庄子まゆみ
しょうじ・まゆみ
南相馬市役所 復興企画部長
2014～2016年度まで中央図書館長。
館内の「カフェビーンズ」で、コーヒーを飲みながら駅通りの往来をぼんやり眺めるのがお気に入り。



INTERVIEW

暮らしの

図書館だから 真ん中にある

できること

図書館で働くために
南相馬にやつてきた
3人のおはなし

全国から視察の絶えない中央図書館。熱視線を送るのは、図書館で働く「司書」のみなさんも同じかもしれません。今回は、県外から縁もゆかりもない南相馬に就職を機に移住した3人が登場。「小さい頃から本が大好き」という共通点のある3人の、図書館をめぐる想いとは。

それぞれの本との出会い、 図書館との出会い

高橋 私は、いつも図書館にいる子どもでしたね。夏休みになると、朝から晩まで。通っていた学校の図書室も地元の図書館も充実していました。

佐藤 私の地元には、公民館図書室しかありませんでした。『シャーロックホームズ』の1巻がずっとなくて、「貸出中です」という説明をされ続けていたんだけど、結局読めずじまい。「私だったらちゃんと揃えておくのに」と悔しかった覚えがあります。だから、高橋さんは逆で、子どもの頃には図書館のいい思い出ってあまりないんです。本は小さい頃からずっと好きだったんですけどね。

早川 私も小さい頃から本が好きだったから、たくさんの本がある小学校の図書室に行くのを楽しみにしていたんですね。だけどそこは、職員室に行つて高橋さんは逆で、子どもの頃には図書館のいい思い出ってあまりないんです。本は小さい頃からずっと好きだったんですけどね。

自然と司書になる方向へ向かっていったのかもしれません。

佐藤 私は就職先を考えるときに、自分の興味が向かう先は、本と子どもなどを考えて、両方とかかわれる図書館で司書になろうと決めたんです。

早川 高橋さんは昔の図書館情報大学（現在は筑波大学に合併）という司書専門の大学に行っていますよね。高校生の時には司書になると決めていたことは、3人の中では一番早く道を定めることになりますよね。

高橋 中学生の時点で、いくつかの選択肢のなかで浮かんだのが、憧れていた司書のお兄さんだつたんです。それで司書になるための大学に行くぞと中学生の時にはもう決めました。ただ、大学に入つてみたら「司書の募集は少ないから、他のこともちやんと勉強しておこうね」という方針で、情報システムについて勉強したり、卒業論文は哲学について書いたり。今となれば、その経験が南相馬に来て活きていると思います。

ただ、私は新卒で入つたので、中央図書館の仕事しか知らないんです。別の図書館も経験されているおふたりのような方たちの意見もとても参考になります。

早川 大輔
DAISUKE HAYAKAWA

佐藤 真紀
MAKI SATO

高橋 将人
MASATO TAKAHASHI

『妖精事典』キャサリン・ブリッグス 編著：妖精の名前や関連する事柄の事典。本棚の片隅で黙っている本ほど、かまってあげくなるんですよね。

日々の積み重ねと、挑戦と。 ここでなら、きっとなん でもできる

ここは、いろいろな意味で利用者さんとの距離が近いです。それは、運営に利用者のさまざまな声を反映しているからでしょう。

早川 ここは、いろいろな意味で利用者さんとの距離が近いです。それは、運営に利用者のさまざまな声を反映しているからでしょう。

佐藤 野菜や釣った魚をおすそ分けしてくださる方もいるくらい(笑)。私は、中央図書館の求人に応募する前に一度見に来て、図書館に漂う雰囲気が「親切」だと感じました。それまで福島には一度も来たことがなかっただし、知り合いもいなかつたけれど、移住して働くことを後押しになりました。利用者さんもすぐフレンドリーですね。南相馬のこといろいろと教えてもらいます。

フレンドリーで距離感が近いからこそ、いつも読んでいる本から「こういう本が好きだらうな」って利用者さんたちの顔が思い浮かんで、自然と選書につながったりします。

高橋 移動図書館に持つて行く本を選ぶときも「これはあの人選ぶんじゃないかな」と想像します。移動図書館はこっちから訪ねていく関係性だから、図書館にいるときよりもフレンドリー



な感じになりますね。

早川 普段利用している人が誰かを連れてきて「自分はこういう使い方をしているんだよ」って話しているのを聞くのはすごく嬉しくなります。

高橋 利用者たちが視察対応のように図書館を案内してくれているのは心強いですね。利用者が「自分の図書館」「自分の本棚」って思つてくれたら図書館としては一番嬉しいんじゃないかな。

早川 図書館の人が大事にされる感じがあって、行政がそういう方針なのかなと考えていたんです。実際に来てみたら、行政もそうだけど、市民の方が図書館自体も働く人のことも大事にしてくれているんだと感じました。

高橋 今、全国で新しい図書館の取り組みが話題になるのを見ていても、南相馬でもできそうだな、と思えることが心強くなります。利用者である市民の方々も行政や議員の方々も、「やつてみな」と言ってくれる、チャレンジを応援してくれる環境はあります。

※菅野清二さん..昔話の語り継ぎや子どもの読み聞かせに尽力した。



高橋将人
たかはし・まさと



佐藤真紀
さとう・まき

山形県出身。大学卒業後、新卒採用で中央図書館に就職し、勤続11年。現在は、移動図書館の担当。日々、行き先に合わせた選書を図書館バスに乗せ、市内各地を奔走中。

高橋 郷土の情報つて引つ越してきたりするけれど、それが活字になつてないのももつたないと感じます。たとえばずっと住んでいた人に話を聞くと、地域のことにつづく詳しつたりするけれど、それが活字になつてないのももつたないと感じます。

早川 以前の勤務地は石川県金沢市で、すごく郷土意識が高いところだったんですね。そうすると郷土の情報を調べて、本として出版されてということがよくあるんです。こちらに来てみて、すごくいい資料を持っているのに本になつてないのは惜しい気がします。だからそういう情報をまとめて本にしていくこともあります。このまちで上手に住めば、このまちで上手に住めるようになる。そのくらいの郷土コーナーとか地域のコーナーがつくれるといいな。

佐藤 ここは駅が近くで引つ越してきましたばかりの人や旅行者が通る確率が高いから、地図がないか聞かれたり、おいしいごはんが食べられる場所を聞くかれたり、カウンターにいるとよくあります。そういったニーズが「図書館

早川 雑誌や、写真集、文字が全然ない本だってありますしね。使う方も上手に使つてくれたらいですね。それに応えて私たちももつとがんばっていきましょう。そうすれば、これからもどんどんいい図書館が育っていくんじゃないでしょうか。

文 = 編集部、写真 = 鈴木宇宙



早川大輔
はやかわ・だいすけ

秋田県出身。石川県金沢市内の大学を卒業後、金沢市内の市立・石川県立図書館などに13年間勤務。2018年4月より、中央図書館に。利用者の調べもの手助けをするレファレンスを専門とする。



佐藤真紀
さとう・まき

北海道出身。2003年~2016年まで東京都豊島区立図書館司書として、児童サービスを担当。2016年4月より、中央図書館に。絵本専門士、JPIC読書アドバイザーとして活動中。

高橋さんのオススメ本

『わたしの名前は「本」』ジョン・アガード：「本」を知ることに敬意を感じるのは、職業柄なのでしょうか。初めて読み終えたときは、とにかく美しい本だったと思ったことを鮮明に覚えています。

佐藤さんのオススメ本

『あおのじかん』イザベル・シムラール 文/絵 石津ちひろ/訳：夜の闇が空を満たすまでの青色の変化、様々な青色の生き物たち。たくさんの青に癒されます。仕事で疲れた時、眠る前によく手に取る1冊です。

暮らしの拠り所に
なるために

佐藤 私はここで、子どもが読める元の昔話集を作りたいです。もともと語りもやるし昔話も好きなんですが、菅野清二先生(※)に出会って、事あるごとにお話されていたのが「地元の昔話を子どもに伝えていかなくちゃダメだよ」ってことだったんです。何年かかっても昔話集をつくりて伝えていのが、この図書館をつくった主要メンバーのひとりである菅野先生の意志を継ぐことになるのかなと思います。

高橋 「郷土愛」って言つたりするけど。仙台や東京に子どもたちが出ていくって戻つて来ないという課題は、南相馬はもちろん地方に共通した課題です。子どもが「ここが好き」って思えるよう、昔話とか地域のこと小小さい頃から触れやすくするのは、とてもいいと思う。実際、高校生のときにこの図書館を使つて、県外の大学に進学して、司書として戻つて来た人もいるからね。菅野清二先生の語り継ぎや子どもの読み聞かせ尽力した。

佐藤 それは嬉しいですね。「図書館があるからここで暮らしていくける」とか、「なんでもできるな」と思つてもらえたら。



蔵をモチーフにした三角屋根の窓から
はたっぷりと光が入り、木の色と
館内の椅子や鉄骨に使われている緑
色が、本を包む暖かな空間。





嬉しそうに、真剣に、本と向き合う子どもたち。

ゆっくり本を読みながら飲むのに適した温かい飲みものです。当店でも冬の締めの一杯として人気があります。冷たい生クリームのあとに温かいコーヒーが入ってくると当たりが持ち味なので、混ぜないで飲んでくださいね。ノンアルコールにすることもできますし、家庭でさまざまな応用を楽しめるカクテルです。

当店へいらっしゃる本好きのお客さんは、お店が開く前に図書館で時間を過ごすこともあるようです。本がおもしろくて、開店時間からずいぶん遅れてお店に来られた方もいましたよ(笑)。



今宵の一 杯

Bar Wizard

マスターの

アイリッシュ
コーヒー

カクテルの全国大会で優勝経験を持つ、バーテンダー草野聰さん。彼が営む「Bar Wizard」から、季節に合ったおすすめの一杯をお届けします。



ポイント

- ウイスキーは温め、コーヒーは温いめに淹れる。
- コーヒーと混ざらないよう、生クリームは硬めにホイップし、そつと浮かべる。

作り方

- 3 耐熱のグラス or カップ
- 2 ウイスキー・メープルシロップ 小さじ2
- 1 ホットコーヒー 適量

用意するもの

- ウイスキー
- メープルシロップ
- ホットコーヒー
- 生クリーム 適量



草野聰
くさの・さとし



Bar Wizard

南相馬市出身。茨城県土浦市にあった「Bar Wizard」にて修行後、原町屋台村広場で「カクテル屋チョイス」を開店。2010年12月に「Bar Wizard」をオープン。2018年、「第45回全国バーテンダー技能競技大会」創作部門で1位。

馬先生直伝!!// 正しい馬の食のり方 by Dr. KAMIDE

南相馬市在住の馬専門の獣医師、上手健太郎さんが、馬を健康に保つための栄養学や健康法を、最新の研究も参考にしながら、分かりやすく伝えています。

第三回： タンパク質と脂質

タンパク質は筋肉をつくる

特に3歳くらいまでの若い馬は、まだ成長途上の状態です。5歳以上の成熟した馬と比較すると、タンパク質の要求量が高いとされています。したがって、飼料として1日500グラム程度、大豆粕を与えることもありますが、非常に高タンパク質のため、与えすぎには注意が必要です。特に運動時などに、他馬と比較して白い泡のような汗が出ている場合、タンパク質過剰の状態といえるでしょう。

脂質はエネルギーをつくる

キャノーラ油やコメ油は、エンパクと同じ重量でも3倍程度のエネルギーを有し、300ミリリットルあたり3000キロカロリーほどになります。脂質は、常歩、速足、駆足*の際に、糖質と同じく駆動する際のエネルギー源になります。したがって、持続的な運動を行うためには、炭水化物（糖質）からのエネルギー経路だけでなく、脂質からのエネルギー経路もつづつたほうがよいとされています。

- 1日10キロを目標としたイネ科牧草の給餌。マメ科牧草であるアルファルファやルーサンは最大で1日2kg程度とする。
 - 低～中程度量の炭水化物は（圧ペント大麦、エンパク）1度に2・5キロ以上は超えないようにする。
 - 若い時期は、タンパク質となる大豆粕を1日500グラム程度給餌する。
 - 脂質として濃厚飼料の5～10%のキャノーラ油もしくはコメ油を給餌し、スマミナアップを図る。
- * 襲歩の際のエネルギー源としては糖質を使います。

ボディコンディションを確認する指標であるボディコンディションスコア（BCS）も給餌計画を立てる際に参考にしてください。また、3回に渡ってお伝えしてきたサラブレッドへの給餌のポイントをまとめると、左のようになります。

BCS（ボディコンディションスコア）

脂肪が少ない



BCS 5（普通）

ボディコンディションが1つ変わるには、30日から45日かかると言われています。無理なくボディコンディションを戻すことが肝要です。





「表紙の馬」

ロジック



野馬追出陣時



現役時代

・2003年3月17日(16歳) セン
・成績: 23戦3勝
・獲得賞金: 1億 8594万 2000円
・血統: 父 アグネスタキオン/母 エイプリルドラマ

2005年10月デビュー。マイル
戦主体のローテを組まれ、NHKマイ
ルカップへ出走する。レースでは武豊
騎手の騎乗のもと、内ラチ沿いから
末脚を伸ばして、叩き合いを制し、
重賞初制覇をG1勝利で飾った。
引退後、2010年5月に京都競馬場で平地G1競走の勝利馬として
年5月より南相馬市内で功労馬として
繁養されており、相馬野馬追にも出場している。

発行元: 南相馬市役所
統括編集長: 武田智芳(南相馬市役所)

編集: 小野民

アートディレクション・デザイン: ニシヤマリカ

写真: 鈴木宇宙、田中郁衣、原重幸(南相馬市役所)

制作(南相馬市役所): 馬場仁、青山雄磨、大和田智之、比留間勇人、杉本佳夫、中城由奈、向後直人

撮影協力: 図書館司書のみなさん、かしま保育園のみなさん、おおうち書店、加藤貴之、ロジック

発行日: 2020年1月24日

問い合わせ: 南相馬市サポーター事務局(南相馬市役所内)
〒975-8686 福島県南相馬市原町区本町二丁目27番地/
TEL: 0244-22-2111

図書館で私の気に入りは、「返ってきた本コーナー」。平日は700人、休日では1500人の方が利用される図書館とあって、利用者の興味関心もさまざま。自分ではまったく出会うことのないジャンルの本がいつも並んでおり、つい本を借りてしまします。聞くと、人気のコーナーでこの棚の前で足を止める方も少なくないことがあります。なんと、それを見越して、書さんが利用者を気遣った本をさりげなく並べることもあるのだとか。(最近、風邪予防の本などをそっと置いているそうです。)

取材の際、そんな話を聞いて、ますます図書館が好きになりました。(青山)

—編集後記—

予測不能な未来を楽しむ! イノベーション研究室

by Next Commons Lab 南相馬

Report.3 小高駅の活用



みなさんはどんなときに駅を使いますか。用事があつて出かけるとき、誰かに会いに行くとき。きっと、どこかに移動するために使うことが多いと思います。今回のイノベーションプロジェクトを取り上げます。

南相馬には、北は仙台、南はいわきまで繋がるJR常磐線が縦断しています。2011年東日本大震災及び原発事故により、いま現在(2020年1月)も富岡駅から浪江駅までのおよそ20キロの区間が不通となつており、代行バスが運行。地域住民にとっても外部から訪れる方にとっても不便な状況が続いています。ついに2020年3月、不通区間も含めた常磐線全線再開がアナウンスされました。

小高駅活用プロジェクトはこのタイミングに合わせ、地域の課題である「地域の取り組みがうまく外部とつながっていない現状」にフォーカスして、さまざまな取り組みを検討しています。昨年12月には、地域資源の掘り起こしと、そこから広がる「使いたくなる駅」のイメージをふくらませるワークショップが行われました。そこでは、住民が駅を通したまちづくりに関わりつつ特色をあえて

こちらのプロジェクトに関するお問い合わせは、下記 Next Commons Lab 南相馬のメールアドレスにお寄せください。



▲2019年12月に行われたワークショップの様子。小高の資源や魅力の棚卸しを踏まえて、駅を中心とした望む未来を描きました。

✉ contact@ncl-minamisoma.jp
http://www.facebook.com/171167223543684
http://www.instagram.com/ncl_minamisoma/

Next Commons Lab 南相馬では、現在起業家を募集中です。「予測不能な未来を楽しもう」というコンセプトを掲げ、自分たちの手で欲しい未来をかたちづくるため、多用なセクターの方々と協働し活動しております。ご興味のある方は、右記QRコードをご参照ください。



Next Commons Lab

南相馬

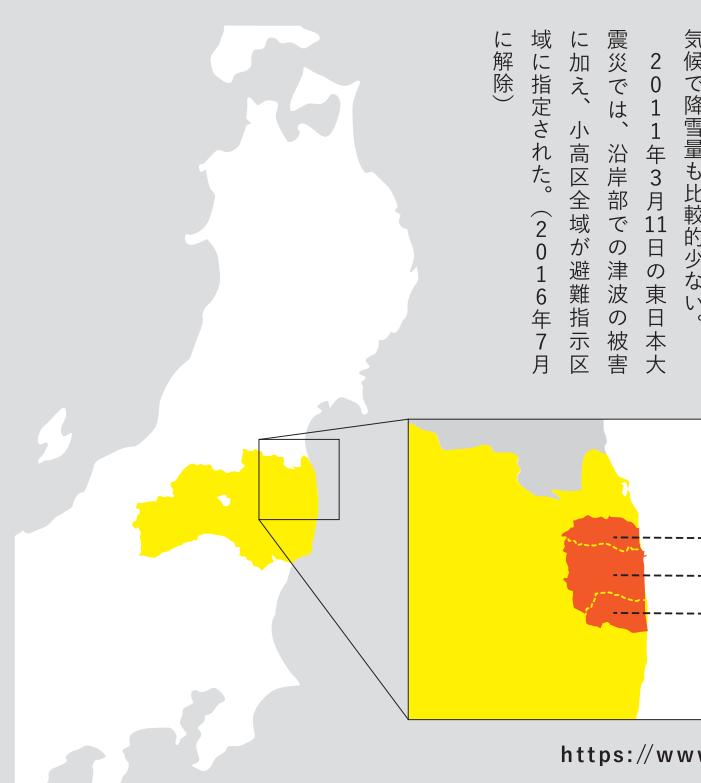
<http://nextcommonslab.jp/minamisoma/>

南相馬とは？

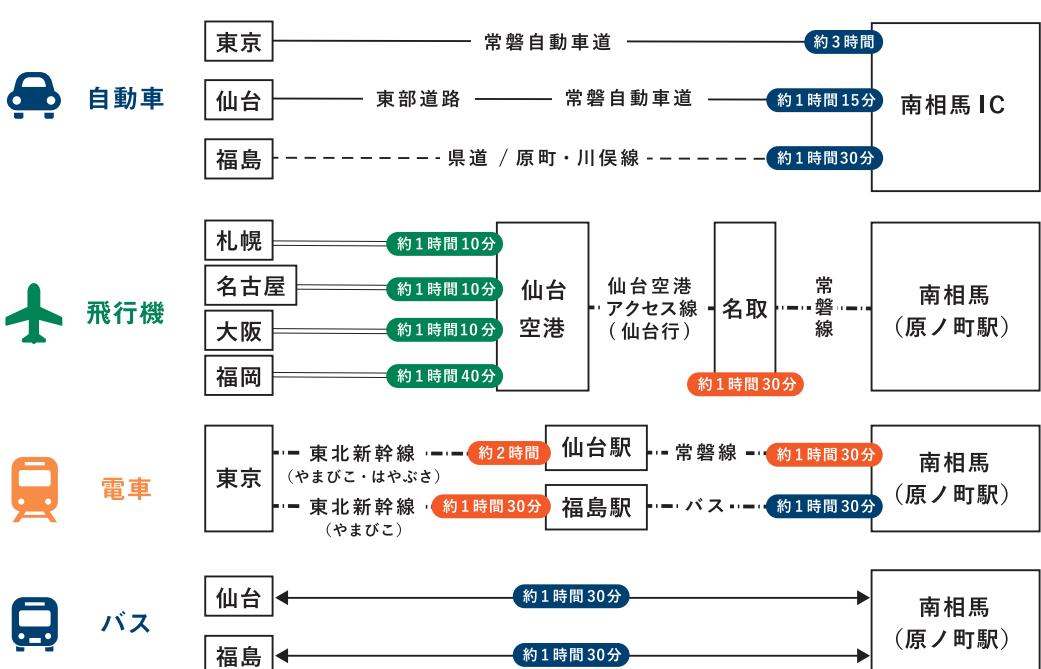
現在の南相馬市は、2006年1月1日、旧小高町、旧鹿島町、旧原町市の1市2町が合併して誕生。福島県の浜通りと呼ばれる、太平洋に面した地域の北部に位置し、東京から距離は292km。いわき市と宮城県仙台市のほぼ中間にあたる。夏は涼涼・冬は温暖な気候で降雪量も比較的少ない。

2011年3月11日の東日本大震災では、沿岸部での津波の被害に加え、小高区全域が避難指示区域に指定された。（2016年7月に解除）

人口：53,567人
広さ：398.58km²
市の木：けやき
市の花：さくら
市の鳥：ひばり
市の魚：さけ
市の昆虫：ほたる



ACCESS 交通アクセス



ミナミソウマガジンとは… 南相馬の「いま」を伝えるため2019年1月に創刊した、1号1テーマの特集と連載からなる会報誌です。読者は南相馬市のサポーター会員。サポーターには、市外に住んでいて南相馬市と縁があり、かかわりたいと思ってくださる方なら誰でも登録できます。南相馬で暮らす馬たちの表紙が目印の冊子を、年に2回無料でお届けします。

「ミナミソウマガジン」が届く！

『南相馬市サポーター』登録はこちらから

